

平成 16 年 8 月 20 日

各 位

会社名 株式会社 静岡中央銀行
代表者名 奥田 一
問合せ先 企画部長
林 道弘
(TEL 055-962-6113)

平成 17 年 3 月期 第 1 四半期情報の開示について

当行の平成 17 年 3 月期 第 1 四半期(平成 16 年 4 月 1 日から平成 16 年 6 月 30 日)における四半期情報開示について、お知らせいたします。

(注) 以下に記載する数値は、監査を受けておりません。

1. 「金融再生法ベースのカテゴリーによる開示」(連結)

(単位：百万円)

	平成 16 年 6 月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	3,173
危険債権	6,006
要管理債権	4,464
合計	13,643

(参考)(単位：百万円)

平成 16 年 3 月末(実績)
3,108
6,316
4,406
13,831

(注) 上記の四半期末(平成 16 年 6 月末)の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第 4 条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については以下の点につき年度末又は中間期末に開示する計数とは異なるため計数は連続しておりません。

- 平成 16 年 6 月末の「破産更正債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」の金額は、同年 3 月末時点における債務者区分()をベースとし、同 3 月末から 6 月末までの倒産、不渡り、延滞等の客観的事実のほか、当行の定める自己査定基準に基づき債務者区分の見直しを行い、6 月末残高にて開示しております。
- 平成 16 年 6 月末の「要管理債権」の金額は、同様に同年 3 月末時点における「要管理債権」をベースとし、同 3 月末から 6 月末までに新たに「要管理債権」となった貸出債権、および回収状況ならびに債務者区分の変更を勘案し、6 月末残高にて開示しております。

債務者区分との関係

破産更正債権及びこれらに準ずる債権(実質破綻先、破綻先の債権)

危険債権(破綻懸念先の債権)

要管理債権(要注意先のうち、元本又は利息の支払が 3 ヶ月以上延滞しているか、又は貸出条件を緩和している債権)

2. 自己資本比率（国内基準）

[連結・単体]

(参考)

	平成 16 年 9 月末(予想値)	平成 16 年 3 月末(実績)
連結自己資本比率	10.7%程度	10.75%
連結 Tier 比率	9.1%程度	9.09%
単体自己資本比率	10.7%程度	10.78%
単体 Tier 比率	9.1%程度	9.11%

(注) 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。

3. 時価のある有価証券の評価差額（連結）

評価差額

(単位：百万円)

(参考) (単位：百万円)

	平成 16 年 6 月末				平成 16 年 3 月末			
	時価	評価差額			時価	評価差額		
		うち益	うち損			うち益	うち損	
その他有価証券	51,272	4,775	5,116	340	50,244	4,948	5,173	225
株式	6,214	4,054	4,060	5	6,368	4,208	4,210	1
債券	27,938	18	340	322	26,650	237	425	188
その他	17,119	702	715	12	17,225	502	538	35

(注) 1. 平成 16 年 6 月末の「評価差額」及び「含み損益」は、同年 6 月末時点の帳簿価額（償却原価法適用前、減損処理前）と時価との差額を計上しております。

また、平成 16 年 3 月末の「評価差額」及び「含み損益」は、同年 3 月末時点の帳簿価額（償却原価法適用後、減損処理後）と時価との差額を計上しております。

2. なお、満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式で時価のあるものはありません。

4. デリバティブ取引(連結)

該当ございません。

5. 預金・貸出金の残高

[連結]

(単位：百万円)

	平成 16 年 6 月末
預金（未残）	414,414
貸出金（未残）	353,156

(参考) (単位：百万円)

	平成 16 年 3 月末
	414,288
	351,257

[単体]

(単位：百万円)

	平成 16 年 6 月末
預金（未残）	414,711
うち個人預金	308,403
貸出金（未残）	353,160
うち中小企業等向け貸出金	320,636
うち消費者ローン	70,199

(参考) (単位：百万円)

	平成 16 年 3 月末
	414,588
	306,266
	351,261
	317,444
	67,957

以上